2022年7月19日

IAPH 日本セミナー資料

Data Collaboration 技術委員会について

国際港湾協会

iaph
international association of ports and harbors

Data Collaboration
技術委員会について

委員会の紹介

1. 発足時の説明
    1. 経緯
    2. 活動計画
2. 2年目の説明
    1. 活動計画
3. 第7回委員会(5/19)の議事概要
4. イノベーションサブWGの活動紹介

委員会の紹介

1. 発足時の説明

1.経緯

IAPH改革の一環で新たに設立 [2020年9月8日理事会決定]

SDGs[2015年9月に国連サミットで採択]の達成を基本

港湾を取り巻く昨今の環境の急激な変化を勘案

1）気候変動への抜本的な対応
2）急速なデジタル化の浸透
3）激甚化する自然災害やサイバーテロへの対応等

今後数年間の戦略的な重点分野として設定

① 気候とエネルギー
② データコラボレーション
③ リスクと強靭性

委員会の紹介

1. 発足時の説明

1.経緯

IAPHにおけるコロナ禍への対応　ー更なる電子化の推進を主張ー

WPSP Covid19 Task Force の設置と活動

・**アンケート調査**：PCS稼働はIMO加盟の174か国のうち49か国のみ

・関連団体※と**共同声明**(2020年6月2日）、**Call to Action（要望書）**を発表

（6/5付でIMOから回章 No.4204/Add.20として発表）

https://sustainableworldports.org/wp-content/uploads/2020-06-02-Maritime-Industry-Policy-Statement-Acceleration-Digitalisation-FINAL.pdf

※BIMCO, FONASBA, ICHCA, ICS, IHMA, IMPA, IPCSA, ISSA等

9つの優先事項　→　データコラボレーション技術委員会の活動の基本方針

1）IMO FAL条約の既存の枠組みで、港湾手続の更なる電子化・ワンストップ化を促進

2）FAL条約の枠を超えた（陸運等との）データ標準のすり合わせ

3）IMO全加盟国の主要港におけるPCS導入実現

4）既存の海上サイバーリスク管理に関するIMOガイダンスの見直し

5）AI, IoT, デジタルツイン、自動化、ブロックチェーン、VR、ARなどの新技術の港湾分野での普及

6）５）の新技術の、特に港湾労働者や船員の健康を守る分野への早期導入

7）背後地のサプライチェーンとも接続した港湾関連データ連携基盤の設置と運営

8）(長年の課題である）電子B/Lの導入によるサプライチェーンの透明性の改善

9）途上国や小規模の港湾への導入支援

なお、上記Task Forceは改めて2020年10月に、2019年4月のFAL条約改正で加盟国に義務化された港湾の電子申請について、その実施状況の調査を行い、その結果をIMO FAL45にFAL文書45/5として報告した。

https://sustainableworldports.org/wp-content/uploads/IAPH-FAL-Survey-Report-Jan-2021.pdf

委員会の紹介

1. 発足時の説明
2. 活動計画

トピック	焦点・目的	期待する成果
デジタル化の促進(9つの優先事項)	途上国への能力開発研修プロジェクトの設立（世銀・IMO他と協同）	研修計画
	各港でのデジタル化のステータス	ダッシュボード
	ベストプラクティスの体系的な形での共有	データベース
	港・船社・標準化機関の間の対話の促進	ロードマップ
IMO FAL対応	FAL要件の実行への支援	文書提出 討論への参加
	管理運営関連データの標準化の推進	
サイバーセキュリティ	IMO FALおよびMSC委員会でのポジショニング	文書提出 討論への参加
自動化	IMO MSC委員会でのポジショニング	文書提出 討論への参加
イノベーション	データコラボレーションや港湾のスマート化の促進のための起業支援	プラットフォーム

委員会の紹介

2. 2年目の説明

1.活動計画

トピック	焦点・目的
デジタル化の促進	IMOのデータ標準化作業への協力
	港と税関との協力のガイドライン
	IMOや世界銀行と協力しての研修の実施
サイバー セキュリティ	IMOの海事サイバーリスクガイドラインへの IAPHガイドラインの反映
寄港時の最適化	IMO海事シングルウィンドウガイドラインへの 最適化コンセプトの反映
	パイロットプロジェクトの実施
イノベーション	ワーキンググループの設置
自動化	ワーキンググループの設置
チェインポートとの協働	協働分野について検討

委員会の紹介

3. 第7回委員会(5/19)の議事概要

1. IMOでのデジタル化の取り組みへの協力

- IMO FAL46（5/9-13）
- データ標準
- 研修

2. 他機関との協力

- 港と税関との協力のガイドライン
- 世界銀行と協力しての研修の実施
- チェインポート

3. サイバーセキュリティ

4. 寄港時の最適化

5. イノベーション

6. オートメーション

7. 港湾デジタル化の戦略と取り組み

委員会の紹介

3. 第7回委員会(5/19)の議事概要

1. IMOでのデジタル化の取り組みへの協力

- **IMO FAL46（5/9-13開催）**
  - FAL46/23/2 サイバーセキュリティガイドライン
    - IAPHガイドラインを反映した修正版の承認
  - FAL46/5/1　海事シングルウィンドウガイドライン
    - 寄港時プロセスの最適化という概念を、現行ガイドラインを修正し反映させた。
- **データ標準**
  - シンガポールMPAがCG（会期間通信部会）の議長を務めて取りまとめたIMOの電子署名と港湾運営データのデジタル情報交換のためのガイドライン案(FAL46/7)の紹介
    - 海事シングルウィンドウにおける情報交換の認証・完全性・機密保持に関するガイドライン案の採択
    - 寄港時の港湾運営上のデータ標準化に関するガイドライン案の検討継続
- **研修**
  - IMOが実施しようとしているデジタル化関連の研修実施へのIAPHの協力をIMO事務局と検討中であることが紹介された。
  - 現在、実施中の研修事業はFAL46/18の通り。

委員会の紹介

3. 第7回委員会(5/19)の議事概要

2. 他機関との協力

- **港と税関との協力のガイドライン**
  - WCO（世界税関機構）と協働で港と税関との協力上のガイドラインを作成する作業を今年1/20から開始。現在月1回のWeb会議を実施し、案を作成中。
- **世界銀行と協力してPCSに関する調査を実施**
  - 世界の港湾の12のPCSの詳細を調査中。
- **チェインポート**
  - チェインポートの港湾参照モデル（Port Reference Model）とIAPH/世銀のデジタル化へのロードマップをすり合わせ、デジタル港湾インフラ（DPI）戦略ロードマップを作成する企画が進行中。ロサンゼルス・バルセロナ・ハンブルク・ロッテルダムの４港が参加している。

委員会の紹介

3. 第7回委員会(5/19)の議事概要

3. サイバーセキュリティ

- IMOおよびUSCGと今後の方向性について検討中

4. 寄港時プロセスの最適化(Port Call Optimization : PCO)

- PCOに関する国際タスクフォースの活動状況の報告

5. イノベーション

- サブWGの設立と活動状況報告

6. オートメーション

- サブWGの設立と活動状況報告

7. 事例紹介

- PLIPDECO(トリニダード・トバゴ)及びFPTL(フィジー)での港湾デジタル化への取組状況報告

委員会の紹介

4. イノベーション
サブWG
の活動紹介

1. スタートアップショールーム

- 実際にスタートアップ企業と組んだ港湾の事例紹介
  - IAPHハーバーカフェの実施
- サブWG内で今後取り上げる事例の検討

2. イノベーション白書

- 港湾でのイノベーションに関する白書集の作成
  - イノベーションに対する港湾の関心を惹起する
  - ハッカソン・チャレンジ・パイロットなどの企画準備
  - イノベーションハブを設置する

3. スタートアップ基金のF/S

- IAPH会員港湾が参加するスタートアップ基金の検討

4. IAPH港湾トラッカー2次調査

- IAPH会員港湾におけるイノベーション事例の収集
  （11月頃実施、年末頃取りまとめ公表）

次回会合予定：9月15日

Special Thanks to:　横浜川崎国際港湾株式会社

YKIP
Yokohama Kawasaki
International Port corporaton

国際港湾協会　本部事務局　次長　鈴木健之

t_suzuki@iaphworldports.org

03-5403-2770